よい子たちのために

お母さんら猛勉強

主婦の悩みが学習へ発展

いま地域では学習活動が大きな波となつて拡がつているが、ここ緑ガ丘小鳩町では一主婦が見出した小さなことがらが発展して、地域あげての活動にまで波及している。とくに主婦たちは〝子供の教育はまずお母さんから〟と意気も高く、新しい文化の開拓面、正しい新聞の読み方、映画批判などなど広範囲にわたる学習活動に精出しており、知識のかん養とともに人間づくりにいそしんでいる。

ことの起りは、小鳩町34棟の竹下ヤス子さん（32）は或日、ラジオの雑音が余り多いのでダイヤルを回していたところ、いままで聞いたこともない学校向け放送「PTAのお母さん連のつどい」が楽しいメロディとともに乗つてきた。早速新聞を開いて放送番組に色鉛筆で印をつけたことはいうまでもなかつた。

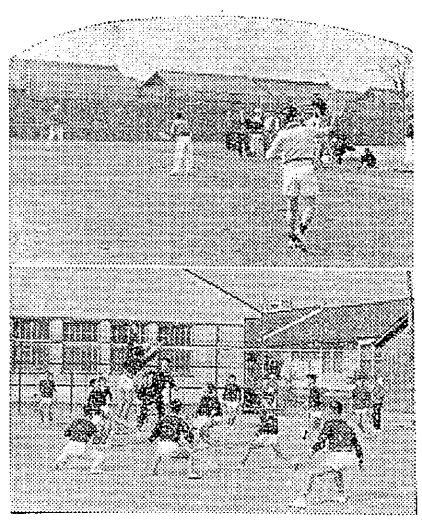
竹下さんはこの放送を聞いたあといろいろと子供の現状について考えてみた。いままでのように家にいるとき流行歌などばかり聞かせていたのでは将来が思いやられるし、また母親の選択しだいで子供はどうにでもなるのではなかろうか……と。近所の前川さんにこの話をしたところ、同じ悩みがあることを知つた。

例えば、新聞でも機関紙の論説と商業新聞では大きく違つてくること。杵島闘争でも商業紙では銀行の動き地元の動きは非常に違伝しているが、組合の考え苦しみ、団結などはあまり語らず、一、二名が脱落すると全体の動きのように報じている。

映画にしても講堂ではあまり教育的な映画は写そうとしない。チャンバラ、暴力、上流社会ものばかりで、実際は三鉱映画は子供どころか親たちにも悪影響を及ぼすのではなかろうか……など話はつきないほどであつた。

映画を料理する

大地評主催の体育大会は今週行われ庭球、バレーを残すのみとなつていたが、この二種目も過去三回こういうことが契機となつて早速主婦会長の川口雪枝さん、文化部の竹内さん、芝尾忠勝さんなどに相談して学習会を開いて貰うことになつた。



港務・港が優勝

大地評庭球、排球戦終る

十一月二十四日、集会所に三十数名が集つて第一回の学習会を持つた。問題を三鉱映画の「妻こそ我が命」からはじまつた。

「ボクサー生活はわれわれには分らない。でも掘口ピストンの気持は分る」と男子側が発言すると女性側は「若尾文子の母として妻としての真実の夫婦愛や、夫と別れようとしたときのシーンはつけたりであんなものではない」と発言するなどで、ついにはメーキャップの仕方まで話題として取上げ発展させた。

あるお母さんは

ヤクザ、暴力映画では義理人情の名で殺人は正当づけられていますほど計画されていて雨天や秋季闘争での各単産の事情により延期されていたが、去る十二月一日、庭球は小浜コート、バレーは三池工高で午前九時から行われた。

庭球参加チーム十組合、四パートに分けて予選はリーグ戦の総当り方式を採り行われた。

各選手とも熱の入つた競技を展開して気持よいプレーが行われた。

バレーも参加は十チーム、うすら寒い気温とあつて絶好の競技コンデションとなり力の入つた球戦が行われた。

成績はつぎの通りである。

【庭球】優勝九電産　二位宮浦　三位港務所

【バレー】優勝港務所　二位市労　連　三位電化

以上の試合終了で大地評今年度の体育行事は全種目にわたつて幕を閉じたことになる。

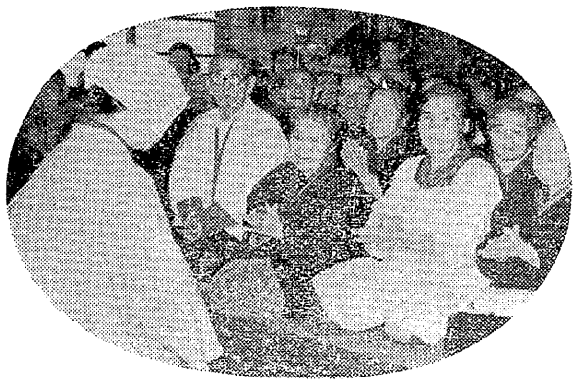
お役所と税金

去る十月始め、私は大牟田博前売券回収のため筑後市へ行つた。市とは云つてもあそこはどちらをむいても田畑ばかりで民家といつたら、吹けば飛ぶような貧弱なものばかりであつた。その中で、ところどころ鉄筋コンクリートの立派な建物があたりを威圧するかの様にデンと構えていたあたりの風物とつり合わぬことはなはだしいもので異様な感じさえ受けたものである。これらの建物はきまつて市役所とか郵便局とか、公民館とか農協とか、いわゆるお役所の建物であつた。これは何も筑後市だけではない。しかしたまたま自然の環境がこの土地の民家をより貧弱に浮上らせていたというだけでどこの地方でも見られるものである。

毎年夏になると酷暑になやまされ、冬は寒風にさらされてふるえている私達にくらべてお役所では夏は冷房装置や扇風機、冬はストーブやら暖房装置がなされるのである。お役所と普通の住居とがこんなにもひどいビツコの状態であつて良いものだろうか。

ましてやこれらのお役所が貧しい家に住む主婦たちの無理をヤリクリ算段で破れ財布の中からしぼり出された税金で建てられたものであり、その中で一千万円の尊い税金が湯水のように使い込まれていると思うなら、貧しい主婦や労働者たちはもつともつと腹を立ててもよさそうなものである。私たち主婦や労働者は、あまりにも貧しさに馴れすぎて、怒ることを忘れたのではなかろうか。県政を明るくし血の通つた尊い税金をもつともつと県民の幸せのために使つてもらうこと、それが私達の家庭を豊にし明るくするものだと思う。そのためにはいま行われている知事リコール運動をぜひとも成功させたいものである。

本所　一会員



歌と踊りを披露

主婦会で養老院慰問

身寄りのない薄幸な老人たちを慰さめようと主婦会では、去る十一月二十八日大牟田、荒尾両市の養老院へ慰問を行つた。

この日各支部から十名が参加。宮浦、本所、三作が大牟田養老院。三川、四山、港務が荒尾養老院へとそれぞれ別れて養老院を訪れたこの養老院慰問は主婦会では例年行つており、貧しい人たち同志はお互いに助け合おうという優しい気持から出ているものである。

社会主義社会ではもういち早く社会補償制度が完備しているため、老齢に達するとのんびりと余後を楽しんでいるうらやましい環境だが、現在の日本ではとうてい望むべくもない。一日でも早くこういう社会を私たちの手で築き上げねばと養老院を辞した主婦たちの胸には、熱い怒りと湧きあがるような意欲が胸一杯にひろがつていつた。

なお、この日養老院では主婦たちが思い思いに歌や踊りの隠し芸を披露、日ごろ娯楽に恵まれない老人たちもこの日は心ゆくばかりに楽しい一日を過した上、主婦たちからのお菓子の贈り物をうけた。

朝の交通整理

諏訪PTAで交渉

朝のラッシュ・アワーはいつかな解消されそうもない。

クラクションの響きもいらだたしいバスの走行、トラック、自転車の行列。その間隙を縫つてつつ走る学童の群れ。セカセカと急ぎ足の通勤者…。交通事故もこの朝のラッシュと夕刻の退勤時がピークを示している。

とくに子供を学校へやる家庭にとつてはこの時間が一番心配なのである。諏訪桶の交差点もこの例にもれず人車交差のはげしいところであり、ついに諏訪校区のPTAではこの問題を取り上げて、何とか解消しなければと解決策を真剣に討議しあつた。

そこで同校区の広沢市会議員（政治局員、三川）が先頭に立つて古賀校長、藤井PTA会長、早川副会長らと早速三川派出所に交渉に行き、朝のラッシュ時の交通整理を話合つた。

このPTAの依頼が受け入れられ早速三日から交通巡査による整理が朝の七時三十分から八時三十分の約一時間にわたつて行われることとなり、父兄たちを安心させたなお、学校当局とPTAでも話合つた結果、上級学年生徒の訓練も行い、学童は学童で整然とした規律を保つて登校するように訓練して行くこととなつた。

現在、諏訪校生徒は一三五〇名、内新港地区からは七五〇名、小浜小川開地区から四〇〇名が通学している。

幻燈大ゐて

目と耳の情宣に効果

港務支部では土屋知事リコール宣言とともに各職場へ出向いて休憩時間や交替時間を利用して幻燈会をやつているが、耳で聞く情宣と違つて目と耳から入る情宣として現場では非常に好評を得ている。

すでに現在では三交替関係の現場を終了し、残つているのは二、三の常一番関係の現場だけとなつている。

一通り幻燈情宣を終つたところはもう同じことは聞かんでヨカという声も上るほど情宣の効果も出ており、教宣部ではリコール問題のほかに他の幻燈フイルムも持参して上映している。

このため教宣部では幻燈器、テープコーダを担いで現場から現場へとテクリ、毛布を張つたり、スピーカーの準備をしたりで大奮である。

女刑務所も見学

主婦の社会勉強さかん

主婦会西山支部ではさいきん分会で社会見学が活ぱつに行われている。二十二日には大島連合主婦会が福岡へ行き西日本新聞社、水族館などを見学新知識を吸収するかと思えば、二十九日には福祉三分会と四分会が鳥栖の女刑務所を見学、受刑者と話合つて刑務所生活を目のあたりにして帰つてきた。

大島連合主婦会では二十二日貸切バス六台で福岡行きを行つた。板付飛行場では米軍基地と自航機発着場を見学、ついで箱崎の水族館に行き、魚類の多種なのを見て一驚した。このあと西日本新聞社を訪れ丁度輪転機がまわり発送準備に追われている現場を見て感歎した。一方、福三、四分会では二十九日主婦たち四十九名が鳥栖の女刑務所を訪れた。

現在この女刑務所は和歌山、岐阜県の笠松、徳山市、鳥栖の四カ所しかない。

ここでいろいろ説明を聞いたが、一番多いのが窃盗罪であり、その中でも初犯が一番多い。最高年令は七十二才、最低年令は二十才だということも知つた。子供は満一才まで刑務所におくがそれを過ぎると出所させている。現在子供は二人いるそうである。前科では十犯というのが最高で、無期が三名いた。この人たちは殺人という罪を犯した人たちで、一ように家庭が貧しいというのも印象に残つたこういうことから窃盗が多いということが判つたという。作業は養鶏、畑、提灯つくり、カスリ織りで一日八時間労働。月一回は映画もやるという。このほか月曜には活花、火曜書道、水曜音楽、木曜宗教が実施されており、食堂にはテレビも備えつけてあるのにびつくりしたという。ここの平均年令は三十六、七才で全国では二十六七才だと説明があつた。

ある女受刑者は「出所しても社会の人は冷たい目でみる。出て来た以上は暖い気持で迎えてもらいたい。私たちも罪を犯したのは悪いと反省しています」と主婦に訴えていた。

この探訪見学には同支部の松本政治局員や三分会主婦分会長の高峰さんなどが骨折つて、実現させてくれたが、はじめて刑務所なるものを見て来た主婦たちは、いいようのない感慨にふけつていろいろな思いが胸中に去来したというがとにかく大へん有意義でしたと述懐している。

好評だつた〝落盤〟

万田講堂で文化祭開く

三川演劇サークル、楽団三川コールマインが主体となつて、去る十二月一日午後六時から万田講堂で三川支部文化祭を行つた。

演劇サークル「真珠会」ではサークル結成以来、営々として練習に励んできたが、結成後初の公演をこの文化祭で披露した。演しものは月刊炭労に連載されていたこんのひろし作の〝断層〟を同サークルの山口正勝氏が脚色したもので題も「落盤」という身近かな題材を取り上げている。

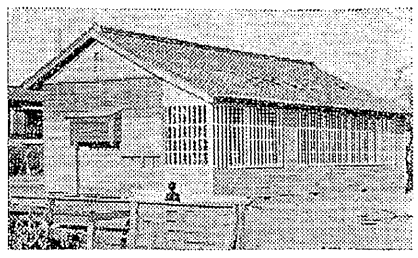
三交替関係などで練習も不足しがちの中で努力が払われたが初公演までの苦労は多かつたという。

当日、講堂は満員の盛況でまず第一部に楽団による演奏、七曲余りが行われ、ついで第二部は「落盤」の上映、さらに第三部では楽団が十五曲ほど演奏して大いに拍手を浴び好評のうちに幕を閉じた。

真珠会ではこんど緑ガ丘、三川の各講堂でも上演したいと意欲を示しているが、まだ公演の日程その他については未定である。

廣くなる館内

四山図書館工事始む



四山図書館では蔵書数が昨年とくらべて倍近くに膨れあがつた現在どうしても館内拡張が必要となつていたが、今回ついにこの拡張工事が着手された。

工事は去る一日から開始、九日ごろ終了する予定になつており、いままでの南側が一間ほど広くなることになつている。

現在図書数は単行本一万一千冊、雑誌類三千二百冊の計一万四千二百冊となつている。

このため図書館も一日より休館、十日ごろには開館する運びになるものと思われるが、拡張とともに図書の整理が行われ、気持よい山の図書館が出来上るものとなるだろう。（写真は拡張中の四山図書館）

柳川で撮影会

精進する三川写真サークル

三川支部では去る十一月二十四日に、文化資金による写真撮影会を柳川三柱神社でもよおしたが、多数のカメラマンが参加し、盛会であつた。

午後は写真部としての総会に切替え、会場も藤枝旅館に移して、一年間の経過報告にひきつづき今後の活動方針を決定した。

一、毎月第三週の土曜日に例会を実施し、場所は人事福利係を使用する。

二、例会の際は、各人作品を持寄り審査を行い、技術向上に努力をする。

というように、先月の大牟田博スナップ展に引続き、今後はさらに精進しようという意欲にみちている。

役員改選については

会長　牧島　牧男
副会長　満澄　茂
会計　野崎　数美
監査　緒方　新

を決定。

新入会希望者は教宣部又は福利野崎氏まで申込むようになつている

【三川発】

「にはち」発行

三川支部第二十八分会（本層下常一番）ではこんど職場機関紙「にはち」の初号を発行した。

タブロイド四ページ、月一回発行である。